



城北小だより

10月号

令和6年9月30日
さいたま市立城北小学校
TEL 048-757-5391
児童数694名

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

一朝一夕にはできないこと

校長 中村 篤

9月25日(水)から1泊2日で6年生の修学旅行に行っていました。1日目は少し雨に降られましたが、過ごしやすい気温で、華厳の滝や竜頭の滝の見学、中禅寺湖での遊覧船、戦場ヶ原のハイキングを行いました。2日目は朝から汗ばむくらいの良い天気にも恵まれ、日光江戸村と日光東照宮の見学など充実した活動を行うことができました。大きな病気やけが、事故等もなく、全員が無事に帰ってこられたことにホッとしています。しかし、旅行中にいくつかの課題が見られました。そのうちのひとつとして、宿の夕食会場での出来事があります。班ごとに会場に集まってくると、楽しい気分になっているためか、非常ににぎやかで教員の指示がなかなか通らない状態でした。さらに、脱いだ靴をそろえずに会場に入ってしまう子もいました。事前指導がしっかり行き届いていなかったことは我々教員の反省点です。心の中で「子どもたちはこれくらいのことは当たり前でできるのではないか」という思い込みがあったのかもしれませんが、もちろん、互いに注意しながら真面目にしっかりと行動していた子もたくさんいたことを付け加えておきます。このことで感じたのは、「普段の学校生活や家庭生活でできていないことは、外でもできない」ということです。6年生だけに限らず、他の学年全体にも言えることです。あいさつをする、時間を守る、授業にしっかり取り組む、人の話を静かに聞く、しっかり掃除をする、忘れ物をしない、協力して行動するなど、「できて当たり前なこと」を学校でも繰り返し指導してまいります。ご家庭でもご協力をお願いいたします。



その後は子どもたちも反省をし、2日目はマナーもよく、協力して活動することができました。さすがは6年生です。この修学旅行の体験を今後の学習や学校生活に生かしてくれるよう、期待します。保護者の皆様にはいろいろとご協力を頂き、ありがとうございました。

さて、9月18日の毎日新聞1面トップに『読書 月ゼロ冊』6割』という見出しの記事が載っていました。この記事によると、文化庁が全国の16歳以上の個人6,000人を抽出して実施した「国語に関する世論調査」で、1か月に読む本の冊数を尋ねる質問では62.6%が「1冊も読まない」と回答し、5年前の前の調査から15.3ポイントも増えたそうです。文化庁は読書離れが進んだ要因を「スマートフォンやタブレットの利用できるアプリやサービスが多様化して利用頻度が高まり、読書の時間にとって代わっているため」と推測しています。

本校では「朝読書」や「読書月間」、「図書の日」、「読み聞かせ」等、毎日のように本に接する機会があります。学校図書館では司書さんが時期に合ったお薦めの本を展示してくれたり、子どもたちの興味・関心のありそうな本を整備してくれたりしています。本を抱えている子に「どんな本を借りたの?」と声を掛けると、ほとんどの子がうれしそうに答えてくれ、皆本が大好きなことがわかります。しかし、中学生、高校生になるにつれて読書量は急激に減っていきます。一度離れた読書習慣をすぐに取り戻すことは困難です。ぜひ、ご家庭でも小学生のうちに読書を習慣づけられるよう重ねてご協力をお願いします。私もこの秋の夜長、買い込んで山積みになっている本を頑張ってお読みしたいと思います。